

フィリピン関係

フィリピンにおける超法規的殺人の実態に関する調査

横浜国立大学博士課程後期 高部 優子

2016年10月、長谷川弥生（弁護士/JALISA 事務局長）、笹本潤（弁護士/COLAP 事務局長）、高部優子（JALISA 事務局）の3名で、フィリピンにおける超法規的措置、殺人、強制失踪の現状を明らかにするために現地調査を行った。

今回の調査は、政治的な理由によるフィリピンの超法規的殺人を恐れた在日フィリピン人の難民申請により、フィリピンの現状把握が必要となり、国際法律家協会インターンのブッチ・ルイスト・ポンゴス氏のコーディネートにより実現したものである。

調査の背景

アロヨ政権下（2001年～2010年）での、政治的な理由による超法規的殺人や強制失踪については、被害者数の多さや、国軍の関与疑惑などから、国連人権理事会特別報告者が派遣され、国連人権理事会で審議されることとなった。

また、2016年6月30日に就任したロドリゴ・ドゥテルテ大統領は、ダバオ市長時代に始めた犯罪取り締まり推進を訴え大統領選に勝利、以降、麻薬犯罪の取り締まりを目的とした超法規的殺人がエスカレートし、9月17日の朝日新聞では、警察当局の情報から7月1日から9月上旬までに警察が殺害した麻薬関連の死者は1105人、7月以降、全国で身の危険を感じた容疑者ら71万2848人が自首したと報道している。しかし、フィリピン国家警察のロナルド・デラ・ロサ長官が、ドゥテルテ大統領就任以来行われた超法規的殺人のうち、すべての殺人が麻薬がらみではないと明らかにするなど、個人間の怨恨や強盗、政治的な理由によるものもあると考えられる。

調査の目的

フィリピンでの超法規的殺人の調査については、国連人権理事会で審議された2008年まではあるが、それ以降の調査はほとんどない。現在のフィリピンでの超法規的殺人はどのような状況なのか、またドゥテルテ大統領就任以来、麻薬に関する超法規的殺人が問題視されているが、アロヨ政権下で国連特別報告者が指摘した政治的な超法規的措置の現状はどのようなものなのかを明らかにする。

調査の方法

調査報告があるアロヨ政権については文献調査を行い、それ以降については現地調査を行った。2016年10月16日~19日に、ソルスゴン (Sorsogon) 州の刑務所訪問、超法規的殺人の調査をしている人権団体カラバタン (KARAPATAN Alliance for the Advancement of People's Right) 訪問、また超法規的措置の被害者やその関係者14人から直接聞き取り調査を行った。

調査報告書の目次

調査報告書の目次は以下の通りである。

はじめに (調査の背景/調査の目的/調査の方法)

第1章 グロリア・マカパガル・アロヨ政権下の超法規的殺人

第2章 ベニグノ・アキノ政権下の超法規的殺人

(KARAPATANレポート「フィリピンの人権状況 アキノ政権下における人権侵害」から)

第3章 ロドリゴ・ドゥテルテ政権下の超法規的殺人

ドゥテルテ政権下での行方 (KARAPATANレポート「ドゥテルテ政権下での行方」から)

ドゥテルテ大統領の100日 ドゥテルテ大統領の積極面/ドゥテルテ大統領の課題

(「ドゥテルテ大統領の100日」2016年10月8日 KARAPATAN 声明から)

フィリピンの平和交渉 (Peace talk) の歴史・内容

(International Coalition for Human Rights in the Philippines のパンフレットから)

第4章 先住民への経済的理由による超法規的殺人

おわりに

聞き取り調査の抜粋

ミンダナオ・ルマドの学校関係者



Lequi S. Tejen さん

21歳です。山の中の学校でボランティア教員をしています。新人民軍の教育をしていると疑いをかけられ、去年の8月9日、マガハットなど民兵のグループが学校にやって来ました。27日の朝、人々を家から追い出し、バスケットボールのコートに集めました。民兵グループが、男性、女性と分け、私は銃を突き付けられました。新人民軍に連絡を取らないよう携帯を出せと言われましたが、ある教員が「私たちはボランティアの教員で新人民軍とは関係がない」と言いました。教育をやめないと、また来て学校を燃やすと脅されました。そして9月1日の事件が起こったのです。

Anayn P. Simroさん

8月9日からおよそ1か月後の9月1日、民兵たちは小学生も含めバスケットボールのコートに集めました。地方組織の代表者だったディオネル・カンポス (Dionel Campos) を子どもたちの前に座らせました。民兵は「お前は特別だ。長い間、ずっとお前を探してきた」と言い、カンポスの頭を銃で撃ちました。彼の脳みそが飛び散り、死ぬほど怖かったです。それは女性や学生、子どもたちの目の前で起きたことでした。



その後、学校に戻ってみると、学校が燃やされてました。何とか消し止めましたが、学校から校長先生の遺体が見つかりました。彼の首は豚のように切られていました。



Anjelyn B. Montenegro

校長先生の遺体を見つけた後、私たちは逃げることにしました。コミュニティのメンバーが集められ殺害があったバスケットボールのコート近くを通ると、民兵たちは笑いながらバスケットボールをやっていました。私たちは泣きながら歩き、16キロ先の町に避難しました。十分な食事もないまま6時間歩き続け、遺体も運びました。

調査の結果

調査の結果、アキノ政権下の超法規的殺人、強制失踪の資料を入手、それを裏付ける証言を複数名から得ることができた。また、ドゥテルテ大統領の麻薬に関する超法規的殺人については、就任後、間もなかったこともあり十分な調査はできなかったが、政治的な超法規的措置が解決されていないことが明らかになった。詳細は、報告書全文を何らかの形で公開するので、ご覧になっていただきたい。

今回の調査については、JALISAのインターンのブッチ・ルイシト・ボンゴス氏、またNUPLとKARAPATANにもインタビューの準備を含め大いにお世話になった。また、多くの方にブッチ氏の飛行機代についてのカンパもいただいた。ここで改めて感謝したい。